

作業学習（ハンドクラフト班）学習指導案

日 時 平成 17年11月8日(火) 2校時
 対 象 高等部 （男子3人 女子10人 計13人）
 指導者 5人
 場 所 高等部 紙工室 視聴覚室 周辺廊下

1 単元名 いずよう祭りに向けて

～ たくさんの製品を作ろう！ ～

2 単元について

(1) 単元設定の理由

ア 単元の価値

いずよう祭りは、毎年2月のはじめに行われる学校をあげてのお祭りである。小学部ではおみこしパレード、中高等部では作業学習の製品販売を行い、他にもPTAや作業所などからの出店もある。保護者や地域の方々、近隣の小学生の参加で年々盛り上がりを見せており、本校の児童生徒も楽しみにしている活動のひとつである。高等部では、作業班ごとに製品販売の店を出す、年間を通して最大の販売活動の機会であり、2学期から3学期にかけての作業学習のほとんどの時間をこのいずよう祭りに向けての製品作りにあてている。

高等部ハンドクラフト班は、牛乳パックやまんがの古本・行事等で使用したお花紙を再利用しはがき・カレンダー・カードなどの紙製品を作る作業とさをり織りのふたつの作業を行っている。生徒は15人で、知的障害標準学級の生徒12人、重複学級の生徒3人が在籍する。教育課程の異なる重複学級の生徒については、実態に応じて教室での作業や参加時間帯の工夫等を行い、週3回の作業学習のうち1回～2回の実施となっているため、今回の研究授業では13名の参加となっている。生徒の実態は知的な面での幅があるとともに、肢体不自由を併せ持ったり、コミュニケーションに課題を抱えていたり様々である。

生徒は、2学期に入り「学校開放週間に向けて～たくさんの製品を作ろう！」の単元で販売活動を経験している。自分たちが作った製品を自分たちで販売することで、「もっと喜んで買ってもらえる製品を作りたい」という製品作りの意欲へとつながった。また、自分たちの作った製品を売る場面に直接関わったことで、完成度の高い製品作りへの意識も高まり、より自分の仕事に対する責任感を高めることができた。本単元では、学校開放週間での販売の経験を受けてより商品価値の高い製品を目指し、製品作りに取り組む。その中で、生徒ひとりひとりがそれぞれの課題を意識して技能の向上を目指し、主体的に意欲を持って活動できると考える。

イ 指導観

観 点	指 導 観
人 の つ な が り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとに作業を分担（班内のつながり・班と班とのつながり） 作業の工程をもとに、紙ちぎり・ミキサー班、紙漉き班、アイロン・プレス班、ステンシル班、さをり織り班の5つの班に分けて活動することで、全員で協力して作ることを理解と責任を持って行うことの大切さを知ることができる。と考える。 ・ 販売活動における接客（外部の人とのつながり） 作る喜びや意欲・達成感を味わう。 ・ 作業日誌の記入と班ごとの成果の発表（教師・生徒間のつながり） 作業学習の反省を毎回行うことで、教師生徒共に作業を振り返り、課題や成果を共有できる。
時 の つ な が り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業学習の流れの構造化（作業学習の時間内の時のつながり） 主体的にあいさつ・準備・作業・片付けに取り組む。 ・ 年間指導計画の単元化（前単元との活動のつながり・単元内におけるつながり・） 年間の活動を5つの単元に分け、段階をふんだ単元の配置を行い、それぞれの単元において見通しをもちながら自分の班の仕事に取り組む。本単元においては、いずよう祭りでの販売活動に向けて見通しを持って作業に取り組む。 ・ 作業学習での働く生活の経験（卒業後に向けたつながり） 卒業後の生活への汎化。働く生活を経験することで、卒業後の働く生活へスムーズに移行できることが期待できる。
場 の つ な が り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業場所を固定化（作業学習内での場のつながり） 製品のできる工程がわかりやすいようにする。 ・ 牛乳パックやまんがの古本など原料の調達（作業学習以外の場のつながり） リサイクルを利用し、給食室や家庭などとのつながりをもつ。 ・ 工程表や治具の作成（教材・教具の工夫） 全体の流れを把握し、できる活動を増やす。

(2) 実態および留意点

名前	関連する基礎課題	作業学習に関する実態
A	<p>人の意見を聞きながら、自分の考えを整理して話したり、報告や相談したりできる。</p> <p>人とのかわりに興味を持ち、友達と一緒に活動できる。</p> <p>「こうしたいのにできない自分」から、現実成長していく自分を認識できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・じっと考え込んでしまう場面が見られ、ゆっくりした自分のペースで行動することが多いが、理解力もあり、指示どおり作業を進めることができる。 ・集団の中での作業は可能であるが、騒音に対する嫌悪感があり気持ちのコントロールができず作業が中断することがある。気持ちが不安定な時は自分なりに気分転換し、リラックスして作業に取り組むことができる。 ・友達と積極的にかかわることは少ないが、丁寧な言葉でお願いや質問することができる。
B	<p>時計の針を読むことができる。金種を理解し、値段を読むことができる。</p> <p>身の回りの整理整頓や身だしなみ、言葉使いに気をつけることができる。</p> <p>書写や絵など手元をよく見て取り組み、確実性を高める。</p> <p>集団での活動において、内容を理解して参加することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手の震えから丁寧さや細かさを必要とされる作業は難しい面はあるが、やる気があり自分で気をつける点を意識して、取り組むことができる。 ・集中力が持続しない面があるが、次の工程への見通しや場の設定、人とのかわり等の配慮があると、最後まで自分の役割を果たすことができる。
C	<p>生活場面で生かせるように、時計を読んだり、お金の金種を区別して、計算したりすることができる。</p> <p>集団の中での苦手な場面において自分の気持ちを表出することができる。</p> <p>自分の役割を理解し、自発的に行動することができる。</p> <p>働く学習や体験を通して、働くことの喜びを感じ、卒業後の生活に関心を持つことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時にもハンドクラフト班の経験があり、作業に対する意欲は高く、流れを理解すると主体的に取り組むことができる。 ・指示理解は高く、単純作業においては集中力・スピードもあるが、はがきの取り扱いにおいて丁寧さに欠ける面もある。
D	<p>お金の価値や時間の間隔を認識し、計画を立て、目的をもって使うことができる。</p> <p>日常生活に必要なことを身につけることができる。</p> <p>学習活動や作業などの経験を通して、目的や見通しをもって行動できる。</p> <p>教師や友達との活動や遊びを通して、ルールを理解し、よりよいかかわり方を身につけることができる。</p> <p>好きなことや楽しみ、興味・関心をもったものを通して、友達とのかわりを広げることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の方法や流れを理解できると、主体的に準備や配置をし、決められた枚数を時間内に集中して取り組むことができる。 ・絵の具の水の分量やステんシルの型の位置、ステんシルの色の濃さなどを確認することで、細部に留意しながら作業を進めることができる。
E	<p>お金、時間、簡単な計算、測量などを理解定着し、日常生活に活用できる。</p> <p>日常生活に関連づけて、できるだけ自分で掃除や調理、作業などができる。</p> <p>自分の体や姿勢のバランスを理解し、意識しながら移動や運動をし、体力を増進することができる。</p> <p>作業能力を拡大し、巧み性と集中力の向上を目指すことができる。</p> <p>友達と協力したり、役割分担したりしながら学習活動や作業をし、役割を理解し自発的に行動したり、意見を述べたりできる。</p> <p>友達とのかわりを増やし、興味・関心の幅を広げ、自分を表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の休憩中にさをり織りを見学に来て、織ってみたいと興味・関心を持っていた。2学期は自分からさをり班を希望し、用具の準備、織りに意欲的に取り組んでいる。 ・班長になり作業には意欲的であるが、正確さを求める作業や工程の複雑なものは難しい。

名前	人・時・場の観点からの実態	指導上の留意点
A	<p>人 教師の言葉かけに精神的に左右される部分が大きく作業に対する意欲・集中力に影響する。</p> <p>人 自分から人と積極的にかかわろうとしないが、紙漉き班と連携を取りながらの作業であるため、教師の言葉かけで紙漉き・ステンシル班に問い合わせて作業を進めることができる。</p> <p>時 作業の内容や方法、時間など一連の作業の流れを確認し、見通しを持って取り組むことができる。</p> <p>場 道具を自分で配置して作業することができるが、安全面や効率的な道具配置に対する配慮に不十分な面もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って取り組むよう、励ましや賞賛など言葉かけを工夫する。 ・道具配置を固定し、準備の際に言葉かけをすることで自分で考えて配置できるようにする。 ・作業の準備から片付けまでの流れ・安全面に対する注意事項を書いたものを表示し、確認しながら作業を進めることができるようにする。 ・作業に取り組む意欲を高めるため、作業の終了時に本時の反省を生かしながら次時の目当てを決め、ボードに書くようにする。
B	<p>人 自分から積極的に友達や教師と話をする姿がよく見られる。ときおり、授業と関係のない話題になったり、言葉使いが適切でなかったりすることがある。</p> <p>人 時 見通しを持ってたり、賞賛されたりすると意欲的に作業することができる。</p> <p>時 マイペースであり、開始時刻に遅れたり、自分で終了時間を決めたりすることがある。</p> <p>場 作業しやすい道具の配置や人員配置、また、工程表の提示や言葉かけなどで、集中して作業に取り組むことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適度に友達や教師と話をしたり、受け渡しや質問等により協力したりすることで、作業に集中して取り組むことができるようにする。 ・時計で開始や終了時刻を提示したり、出来高表で枚数を確認したりすることで見通しを持って作業できるようにする。 ・準備する物・手順表・片づけなど一連の流れを、文字や写真で提示して、自分で確認しながら、活動できるようにする。 ・なるべく一人で作業ができるように治具を作成し活用する。
C	<p>人 あいさつや報告など、人とのかかわりは慣れるまでに時間を要する。</p> <p>時 準備や片付けなど流れの定着していることについては、自信をもって取り組む姿が見られるが、判断を要する場面では動きが止まってしまう。</p> <p>時 1年時のハンドクラフト班の経験から、いずよう祭りに向けての見通しを持って作業に取り組むことができる。</p> <p>場 道具の保管場所や自分の作業場所が分かり、確実に道具の準備や片付けができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイロンからプレス、プレスからステンシル班とはがきの受け渡しであいさつや報告などができる場面を設定する。 ・準備や片付けをスモールステップで示し、毎回同じ流れで作業ができるようにして、自主的に活動できるように配慮する。
D	<p>人 人への興味・関心が高く、活動の合間に興味を引くための行動が見られることがある。</p> <p>時 場 文字や具体物を示すことで、流れや作業を理解することができ、見通しが持てると主体的に時間を見ながら集中して取り組む。</p> <p>場 作業をしやすいように道具や材料を配置することで、集中して作業を進めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に集中して取り組めるよう、自分の役割やすべきことを教師と一緒に確認し、場所の配置も工夫する。 ・適切ではないかかわりをした時には、その場でよりよいかかわり方を伝える。 ・話し合いを通して、本人の意見や考え方を尊重しながら、友達の意見を聞いたり、相談したりできる関係を作る。 ・作業準備から片付けまでの流れを提示し、作業開始時に作業内容や目標枚数を確認できるようにする。 ・道具や材料の配置図を敷いて、準備するものや作業の手順が分かるようにする。
E	<p>人 織り機のセッティング、糸や用具の準備、片付けなど友達に声をかけ、協力してできる。</p> <p>人 友達の織った布に関心を持ち、感想を述べたり、同じ糸で織ったりと、友達とかかわりながら、意欲的に作業に取り組む。</p> <p>時 班長としての意欲はあるが、作業に夢中になり休息や作業終了を告げるタイミングを逃がすことがある。</p> <p>時 自分の織っている布でつくる製品や、販売を話題にし、見通しを持って作業に取り組む。</p> <p>場 用具や織り機の配置を工夫してスムーズに作業できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・軽い麻痺があるためたて糸の幅やボビン、織り方など工夫し、スムーズに織れるようにする。 ・友達の織った布を見たり、評価したりすることで、友達同士のかかわりを深める。 ・時間の意識づけに目覚まし時計を近くに置くようにする。 ・織り上がった布の長さを測り、感想を書き、達成感を味わうと共に、展示することで自信が持てるようにする。 ・袋などの製品を提示し、出来上りをイメージしながら織れるようにする。 ・作業の用具、器具など、置く位置を決めて自発的に活動できるようにする。

3 目標

全体目標

- (1) いずよう祭りに向けての見通しをもち、自分の分担している作業を責任を持って行き、協力して商品価値の高い製品作りに取り組む。
- (2) 販売準備・実際の販売活動について友達と協力して取り組む。

個人目標

氏名	目 標	基礎課題との関連
A	<ul style="list-style-type: none"> ・作業や販売において、教師や友達とかかわり、自分の考えを話したり相談したりして、協力しながら活動することができる。 ・できる活動を増やし、自信を持って取り組むことができる。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ・工程を覚え、自分で確認しながら自主的に作業に取り組むことができる。 ・よく手元を見て作業に取り組み、細かい部分にも気を配って、丁寧に仕上げることができる。 ・時計や出来高表を確認しながら、見通しを持ち、時間いっぱい集中して取り組むことができる。 ・作業や販売に置いて、適切な言葉使いや態度で人とかかわることができる。 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・販売活動において、お金の計算や外部の人とかかわりを体験することができる。 ・作業を通して、人との関わりを多く持ち、自発的にあいさつ・報告・返事などができるようにする。 ・販売を意識して製品を丁寧に扱い、分担された仕事に責任を持って取り組むことができる。 	
D	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を通して自分の役割を理解し、協力しながら、友達とのよりよいかかわり方を身につけたり、広げたりできる。 ・作業の流れを理解し、見通しをもって、主体的に進めることができる。 ・販売までの準備をすることで、製品として作ることを理解し、丁寧さと集中力を高めることができる。 ・販売までの活動を通して、時間の感覚や計画が分かり、労働によって得られるお金の価値を理解することができる。 	
E	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を通して役割分担しながら自発的に行動したり、意見を述べたりして友達と協力して作業ができる。 ・好きな糸を選んで織ることで、自分なりの織りを表現することができる。 ・作業を通して自分の体や姿勢のバランスを理解し、意識しながら織ることにより、巧み性と集中力の向上を目指すことができる。 ・販売を通して簡単なお金の計算ができる。 	

4 指導計画（総時数42時間）

	全体の指導計画	時数	主な班ごとの学習活動と人・時・場の視点				
			紙ちぎり・ミキサー	紙漉き	アイロン・プレス	ステンシル	さをり織り
一次	いずよう祭りについて知る。	1	いずよう祭りとは何か(いつ・どこで・どんな活動をするのか)、いずよう祭りまでの日程、販売する製品などを知る。				
二次	いずよう祭りに向けて製品を作る。 時 いずよう祭りまでの見通し	27 本時 1 / 27	<p style="text-align: center;">人 と の か か わ り 班 か ら 班 へ の 受 け 渡 し お 知 ら せ ボ ー ド の 活 用 な ど</p> <p style="text-align: center;">時 場 の 流 れ 場 の 設 定 班 単 位 の 工 程 表</p> <p style="text-align: right;">場の設定 糸から布への流れ ・小物類 ・洋服類</p>				
三次	販売の準備をする。	9	ラッピング・値段つけ・陳列・販売用のかざりつけなどを仕事を分担して行う。				
四次	販売をする。	2	販売・呼び込み・包装・お金の計算などを分担に従って取り組む。				
五次	反省をする。	3	ビデオを見て活動を振り返り、売り上げの計算などをして反省をする。				

5 本時

(1) 目標

- ・ 全体目標
活動の流れを理解し、任された作業に主体的に取り組む。
- ・ 個人目標

氏名	目標
A	・紙漉き班やステンシル班に自主的に相談し、協力しながら作業を進めることができる。 ・効率よく作業に取り組み、依頼された色のパルプを時間内に目標量生産できる。
B	・紙を水切りする時や干し板に置いたりする時には、よく手元を見て、丁寧に扱うことができる。 ・目標枚数の達成を目指し、意欲を持って作業することができる。
C	・しわや折れに気をつけ、プレスの状態を確認しながら仕事に取り組み、はがきを丁寧に取り扱うことができる。 ・作業の始まり、終わり、製品の受け渡しなど決められた場面であいさつ・報告・返事ができる。
D	・教師や友達と相談して作業の分担や枚数を決定し、自分の役割を理解し、意識して作業を進めることができる。 ・目標の枚数を、時間を意識しながら、見通しをもって主体的に作業を進めることができる。 ・自発的に確認や報告をしながら、商品価値の高い製品作りを意識し、集中して丁寧にステンシルをすることができる。
E	・製品をイメージしながらいろいろな糸を使い、楽しんで集中して作業することができる。 ・糸の選択、準備・後始末、役割など自発的に活動できる。

(2) 指導に当たって

人 時

主体的に自分で考え判断して活動できるよう、作業学習の始まりは特に集合しての打ち合わせは行わない。紙工室に来たら自らすすんであいさつし、出勤簿に押印して、黒板を見て作業内容を確認し、道具の準備をするという、一連の流れを固定化し、人に促されたりしなくても作業にとりかかるまでの流れが分かり自信を持ってできるようにする。

人

- ・作業学習の始まりで紙工室に来たときは、お互いに朝のあいさつを元気よく交わし、気持ちよく活動に取りかけられるようにし、教師も同じ働く仲間としての立場で率先して「おはようございます」のあいさつをするようにする。
- ・わからないことがあった時などは、教師やまわりの友達に自分からたずねたりできるよう教師からはたらきかけは最小限にとどめ、自分から気づいたり考えたりできるような言葉かけを行う。
- ・班ごとのお知らせボードを活用し、班と班の意思の疎通が図れるようにする。
- ・作業の終わりに各班の反省や成果の発表を行い、お互いの仕事や全体の中での自分を意識できるようにする。
- ・授業評価記録簿で、ハンドクラフト班の職員間で手だて・評価の共有を行う。
- ・作業学習日誌を担任に持ち帰り、授業担当者と担任で情報の共有ができるようにする。

時

- ・作業工程表(班ごと)を掲示し、製品ができるまでの流れを意識して活動できるようにする。
- ・いずよう祭りまでの大まかな日程を提示し、見通しを持って活動できるようにする。

場

- ・「作業学習で大切にしたいこと」や個人目標などを紙工室内に掲示し、作業学習への取り組みの姿勢を常に意識できるようにする。収納場所、班ごとの作業場所を示すプレートなどの表示をし、生徒が理解しやすいよう視覚的な提示を工夫する。
- ・ミキサーやプレス機・アイロンなど安全面に十分配慮した活動を行う。
- ・製品作成の流れが分かるような場の設定を行う。
- ・生徒が主体的に活動できるような治具を活用する。

(3) 本時の実際

* 個人目標達成のための手立ては下線で表示

	主な学習活動 (資料・準備)	個別の学習活動と指導の手立て	
		紙ちぎり・ミキサー T3	紙漉き T2
		A	B
導入 5分	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 押印をする。 (出勤簿・ゴム印)</p> <p>3 本時の仕事内容を確認する。 (分担表・連絡事項・お知らせボード)</p> <p>4 作業の準備をする。</p>	<p>場 人 元気よくあいさつをし、気持ちの切り替えや作業への意欲を高める。 目当てを確認する</p> <p>時 本時の目当てをボードで確認し、意欲を高める。</p> <p>時 「作業の準備をしよう」を見ながら道具が主体的に準備できるようにする。</p> <p>場 安全のためミキサーの場所を固定する。 ・ミキサーが倒れないように位置の確認をするよう言葉かけをする。</p>	<p>場 作業の場であるという雰囲気作りや言葉遣いなどに心がけ、作業の始まりを意識し、気持ちの切り替えができるようにする。 タオルの取り込み・道具の準備</p> <p>場 準備する物のリストを見て、主体的に活動できるようにする。</p> <p>人 準備が終わったら報告し、教師と一緒に確認をする。 目標をたてる</p> <p>人 時 前時に作った製品と出来高表を確認し、本時に気をつけることと目標を教師と一緒に確認し、意識できるようにする。</p>
展開 20分	<p>5 作業に取り組む。</p> <p>・紙ちぎり・ミキサー班 (ミキサー・タイマー・量り・目当てボード)</p> <p>・紙漉き (漉き枠・あみ・ケース・タオル・吸水タオル・ひしゃく・干し板・出来高表・準備物リスト)</p> <p>・アイロン・プレス (アイロン・アイロン台・プレス機・カッター)</p> <p>・ステンシル (えのぐ・型紙・水入れ・パレット・配置図)</p> <p>・さを織り (機・糸・ボビン)</p>	<p>パルプの色と量の確認</p> <p>・「作業を始めよう」を見て、紙漉き班とステンシル班に自主的に色や量を確認できるようにする。</p> <p>ミキサーを回す</p> <p>場 「作業を始めよう」の手順を提示し安全を確認して確実に作業が進められるようにする。</p> <p>場 水の量がわかるようテープで印をつけておく。</p> <p>時 ミキサーで回す時間 (30秒) が確認できるようタイマーを使用する。</p> <p>紙漉き班に渡す</p> <p>場 量が確認できるようパルプの保存用パケツに印をつけておく。</p> <p>人 紙漉き班に渡す時の声の大きさや態度など必要に応じて助言する。</p>	<p>紙を漉く</p> <p>場 工程表で主体的に活動できるようにする。</p> <p>場 出来高表で、見通しを持つと共に活動の区切りや意欲づけができるようにする。</p> <p>人 一つ一つ教師や友達と確認しながら取り組み、集中力が持続するようにする。</p> <p>時 集中がとぎれたり、疲れが見えたときには作業終了までの時間を確認するよう言葉掛けをし見通しを持つことができるようにする。</p> <p>時 3枚1セットとして目標を設定し、短いサイクルで達成感が味わえるようにする。 枠のセット</p> <p>場 枠に取っ手をつけ開閉式にし、枠を安定させ両手を使って作業ができるようにする。 パルプを入れる</p> <p>場 枠を水槽に載せ、上からパルプを注ぐことで簡単にきれいに漉けるようにする。 水を切る・干す</p> <p>・パルプが崩れないよう丁寧に扱うよう言葉かけをする。</p> <p>人 よくできたところを賞賛し、意欲が高まるようにする。</p>
終末 15分	<p>6 仕事の後かたづけをする。</p> <p>7 個人反省日誌の記入をする。</p> <p>8 班ごとの成果・反省の発表をする。</p> <p>9 チーフの先生の話</p> <p>10 終わりのあいさつ</p>	<p>場 「片付けをしよう」の手順で主体的に後片付けができるようにする。</p> <p>・他の班の後片付けを手伝えるよう言葉かけをする。</p> <p>人 時 よかった点を認め、改善すべき点を指摘し、「目当てボード」を書くことにより、次時へ向けての実践意欲を高める。</p>	<p>人 班内で片付けの分担をし、協力しながら自分の役割を果たすことができるようにする。</p> <p>時 出来高表で確認しながら本時を振り返り、よくできたところや次時に頑張るところを一緒に確認する。</p>

個別の学習活動と指導の手立て			
	アイロン・プレス T 1	ステンシル T 4	さをり織り T 5
	C	D	E
導入 5分	<p><u>カッターを職員室から運ぶ。</u></p> <p>人 作業室に入る時や先生や友達がいさつをした時は元気よくいさつをするよう促す。</p> <p>時 場 黒板に連絡事項を板書し、自分で確認して作業準備が自主的に行えるようにする。</p> <p>場 お知らせボードで注意点や各班からのお願いが確認できるようにする。</p>	<p>人 時 あいさつで作業の始まりや仲間意識を高められるようにする。</p> <p>時 黒板に提示した作業を確認し、<u>工程表を見て主体的に動けるように促す。</u></p> <p>場 <u>配置図を用意し、必要な道具を主体的に準備できるようにし、必要に応じて確認をする</u></p> <p>人 <u>カレンダーの月毎に合うステンシルの型を相談しながら決め、分担をすることで、自分の役割を理解し、意識できるようにする。</u></p> <p>・作業中の留意点を確認する。</p>	<p>・作業室に入るときは元気よくあいさつする。</p> <p>・出勤簿をよく見て正確に押印する。</p> <p>・できあがった製品をみて、意欲が高められるようにする。</p> <p>人 場 <u>道具の定位置を決めることで実際よく準備し、集中できるような織り機の配置をする。</u></p> <p>・友達と協力して準備し用具の状況がチェックできるようにする。</p>
展開 20分	<p><u>はがきの取り込み</u></p> <p>・ベニヤ板からはがきをはがす時は教師と一緒にいき、丁寧な取り扱いを意識づけられるようにする。</p> <p><u>ベニヤ板を拭く</u></p> <p>・ベニヤ板についた紙が残らないよう、こまめに台ふきを洗うよう促す。</p> <p><u>プレスをする</u></p> <p>・表面がなめらかになることを確認しながら、裏表プレスするよう、「行って帰って裏返し、行って帰っておしまい」のフレーズで覚えられるようにする。</p> <p>場 <u>はがきが重ならないようにプレス機の板にテープで枠を作る。</u></p> <p>・出来をチェックすることで、はがきを丁寧に扱うよう促す。</p> <p><u>カッター担当へ渡す</u></p> <p>人 時 <u>5回プレスが終わったら、担当の教師と一緒にプレスの状態を確認し、カッターの担当へ「お願いします」と言って渡すようにする。</u></p>	<p><u>絵の具をとく</u></p> <p>場 台紙とステンシルの配色を考慮して色を準備できるようにする。</p> <p>人 本人の意見を尊重しながら、教師や友達と相談できるように言葉掛けをする。</p> <p>人 絵の具と水の量を確認する。</p> <p><u>ステンシルの型を置く</u></p> <p>人 台紙とステンシルの位置を確認する。</p> <p>場 同じ位置にステンシルできるように、葉書に合わせて印をつける。</p> <p><u>ステンシルをする</u></p> <p>人 絵の具の濃さや、ずれはないか、ステンシルの隅まで丁寧にできているかなどの確認をし、適切な色の濃さで細部まで丁寧にできているときには賞賛する。</p> <p>時 場 <u>10枚ごとに立てて、終わった枚数が目で見てわかるようにする。</u></p> <p>・曲げたり汚れたりしないように丁寧に扱うように言葉掛けを行う。</p> <p>人 場 目標の枚数が終わったときには報告できるようにする。</p>	<p><u>糸を選ぶ</u></p> <p>場 時 <u>できあがった製品を参考に、好きな糸が選べるように糸を並べる。</u></p> <p><u>ボビンに糸を巻く</u></p> <p>場 セロハンテープで巻き初めの糸を止め、スムーズに巻けるようにする。</p> <p><u>シャトルに糸をセットする</u></p> <p>場 シャトルを安定したところへ置き、大きい穴の方に糸を通すようにする。</p> <p><u>糸道に、シャトルを通す</u></p> <p>場 踏み板に片足ずつ乗せ、糸道を大きく開くようにする。</p> <p><u>横糸をしめる</u></p> <p>・足の交換を意識づけるように時折言葉かけをする。</p> <p><u>箧を打つ</u></p> <p>・シャトルの引き具合を調整しながら、ゆっくり打つよう言葉掛けをする。</p> <p><u>織った布の長さを測る</u></p> <p>人 時 感想を述べ、教師の具体的な賞賛を聞き、次時への意欲につなげる。</p>
終末 15分	<p>人 場 道具の片付け、自分の使った場所の清掃をし、終わったら他の班の清掃の手伝いもする。</p> <p>時 教師と一緒に作業を振り返りプレスの出来高をもとに作業日誌に反省を記入し次回につなげる。</p> <p>人 他の班の反省を聞き、友達の活動の様子やハンドクラフト班の作業の状況に関心を持つ。</p>	<p>人 それぞれの出来高を報告しあい、反省をする。</p> <p>時 ステンシル班全体としての進行状況を確認して、次回の作業内容を確認する。</p> <p>人 時 他の班の反省を聞きながら、ステンシル班としてのつながりや進行状況を意識できるようにする。</p>	<p><u>作業の終わりを、各班へ知らせる</u></p> <p>場 <u>あらかじめ時計のアラームを教師と一緒にセットしておく。</u></p> <p>人 <u>織り機を片付ける時は友達と協力するよう意識づける。</u></p> <p>・ガムテープを利用して糸くずをとる。</p> <p>・反省の発表では、織り上げた布の紹介を行い意欲が持てるような場面を設ける。</p>

(4) 評価

・ 全体目標に関する評価

活動の流れを理解し、主体的に任された作業に取り組むことができたか。

・ 個人目標に関する評価

氏名	評価	評価のポイント
A	<ul style="list-style-type: none"> 紙漉き班やステンシル班に自主的に相談し、協力しながら作業を進めることができたか。 効率よく作業に取り組み、依頼された色のパルプを時間内に目標量生産できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から気づいて紙漉き班やステンシル班に相談することができたか。 効率的な道具配置ができたか。 時間内に目標量の生産ができたか。
B	<ul style="list-style-type: none"> 紙を水切りする時や干し板に置いたりする時には、よく手元を見て、丁寧に扱うことができたか。 目標枚数の達成を目指し、意欲を持って作業することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> パルプを崩さないように水を切ることができたか。 干し板に置くときにははがきを見ながら丁寧に網をはずすことができたか。 1セットできるごとに教師に報告ができたか。 教師と一緒に出来を確認することができたか。
C	<ul style="list-style-type: none"> しわや折れに気をつけ、プレスの状態を確認しながら仕事に取り組み、はがきを丁寧に扱うことができたか。 作業の始まり、終わり、製品の受け渡しやなど決められた場面であいさつ・報告・返事ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> しわや折れがないか教師と一緒に確認できたか。 はがきが重ならないように並べられたか。 作業の始まりで、自主的にあいさつができたか。 プレス担当へ「お願いします」と製品の受け渡しが確実にできたか。
D	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達と相談して作業の分担や枚数を決定し、自分の役割を理解し、意識して作業を進めることができたか。 目標の枚数を、時間を意識しながら、見通しをもって主体的に作業を進めることができたか。 自発的に確認や報告をしながら、商品価値の高い製品作りを意識し、集中して丁寧にステンシルをすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ステンシルの方や色、枚数について相談し、自分の役割を理解できたか。 作業工程や配置図を見ながら主体的に準備や作業、片づけができたか。 目標枚数を時間内に責任をもって、ステンシルすることができたか。 色の濃さや細部まで丁寧にステンシルできたか。 折れたり、曲げたりしないよう丁寧に扱ったか。
E	<ul style="list-style-type: none"> 製品をイメージしながらいろいろな糸を使い楽しんで集中して作業することができたか。 糸の選択、準備・後始末、役割など自発的に活動できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな糸を使って織れたか。 自分で気づいて作業の終了を知らせることができたか。 道具の準備・織り機のセッティングが教師の言葉かけなしでできたか。 手を休めずに織り機に向かうことができたか。

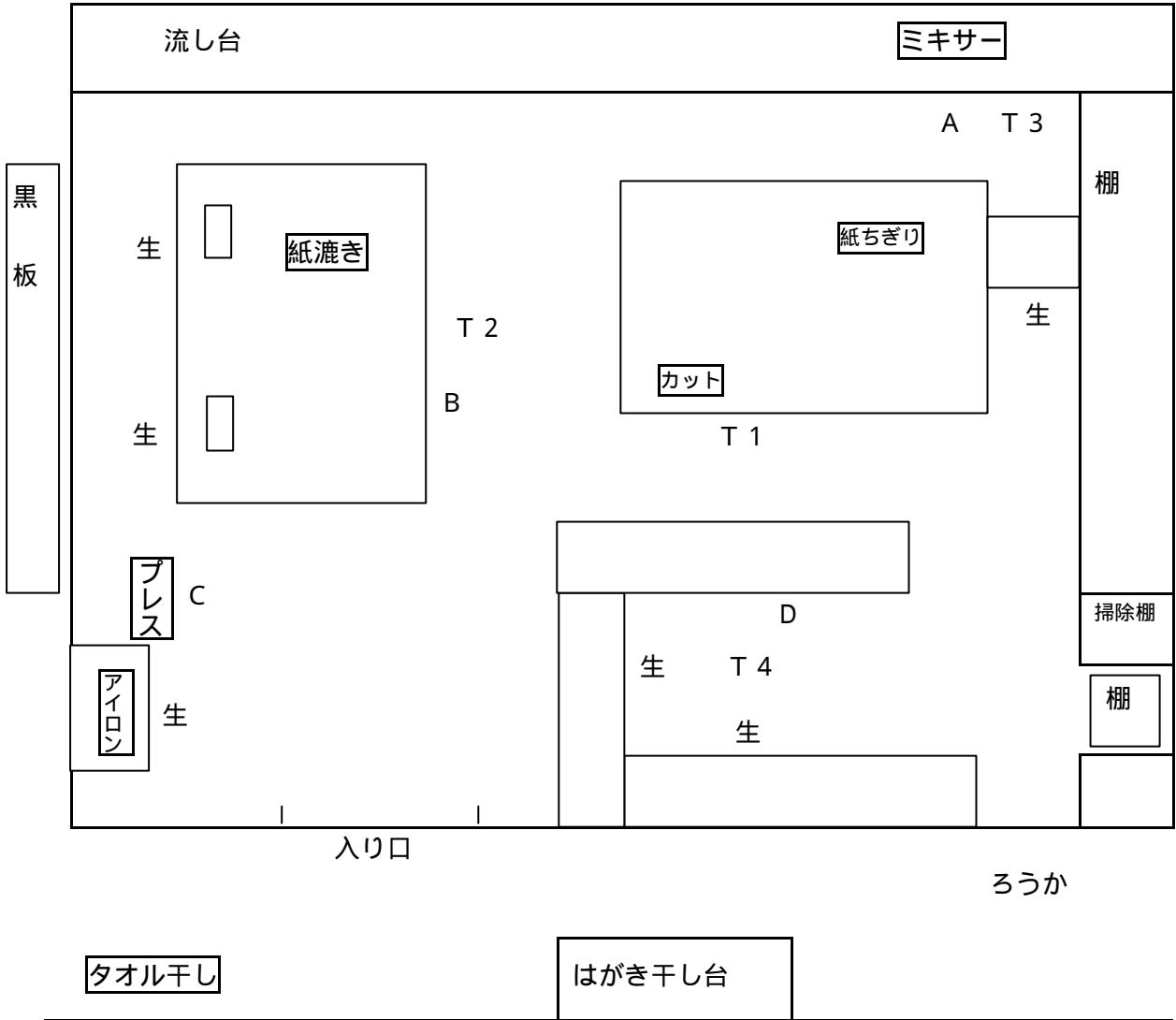
・ 支援の手だてへの評価 (生徒 C を例に 授業評価記録簿抜粋)

日	活動	本時の目標	支援の手だて	支援の手立てへの評価
11月8日	プレス	<ul style="list-style-type: none"> しわや折れに気をつけ、プレスの状態を確認しながら仕事に取り組み、はがきを丁寧に扱うことができる。 作業の始まり、終わり、製品の受け渡しやなど決められた場面であいさつ・報告・返事ができる。 	<p>人：作業室に入る時や先生や友達があいさつをした時は元気よくあいさつするように促す。</p> <p>時：5回プレスしたら教師と一緒にプレスの状態を確認しカットの担当に渡すようにする。</p> <p>場：はがきが重ならないようにプレス機の板にテープで枠を作る。</p>	

<p>支援の手だての記入内容；項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 人：人のつながり，協力，支援 時：見通し，スケジュール 場：教材教具，他場面への汎化 	<p>支援の手だてへの評価：内容</p> <ul style="list-style-type: none"> うまくいったこと，その考えられる理由 うまくいかなかったこと，その考えられる理由 次時に関すること 感じたこと，葛藤，意見
--	---

(5) 場の構成

紙工室



視聴覚室

